



汽水域研究会 NEWS LETTER

汽水域研究会発行（本号編集責任者：作野裕司, sakuno@hiroshima-u.ac.jp）

年2回（4・10月）発行

第1号（創刊号）

2010年4月1日発行

1. 汽水域研究会第1回総会開催

2010年、1月9日午前9時から10時の間、松江テルサ大会議室（島根県松江市）において、「汽水域研究会第1回総会」



が開催されました（参加者30名）。まず高安克己会長による開会の挨拶（次記事参照）後、議長選出が行われ、召古裕士氏が議長に選ばれました。以後は召古議長の司会の下、議事が進められました。主な議事内容は野村律夫事務局

長より役員を選出等について、國井秀伸編集幹事よりLaguna(汽水域研究)発行計画等について、相崎守弘企画幹事よりヤマトシジミ研究会の立ち上げ等について、瀬戸浩二大会幹事より2011年大会の開催案等について、作野裕司情報幹事よりニュースレターの発行等について、それぞれ説明がありました。フロアからは、活発な意見が出され、第1回総会は無事閉会しました。



2. 汽水域研究会の発足にあたって(会長あいさつ)

この度、汽水域研究会の会長を拝命いたしました高安です。総会の議論の中でこの会の性格についてご説明されましたが、皆様の中には共通認識がまだ十分でない方もおられるかもしれません。しかし少なくとも主意書の内容には御賛同いただけたと思っております。私の印象では、汽水域についての様々な活動が各地で行われているかと思いますが、学問的な柱は必ずしもしっかりしているわけではないと認識しています。従って、まずはアカデミックな部分を先行してこの研究会で行っていくということを念頭におきたいと思っております。汽水域という場は、主意書にありますように、我々の生活の場と直結しているが故に、取り扱わなければならない、または配慮しなければならない問題が広範囲にわたっているという特徴があります。すでにみなさんは様々な団体や企業、学会等で活躍されて成果を出されているかと思っております。私も主に地質関係の学会の中で議論をしてきましたが、研究を進めたり成果を議論する中で、様々な分野の問題がからんだフィールドを対象にいたしますと、他の分野から自分の研究をブラッシュアップしてほしいという気持ちが出てきます。多分そのような経験・意識はみなさんにも

おありになると思います。そのような意味でのこの研究会は、その（ブラッシュアップする）土俵を作る場にしてほしいと願っております。それぞれのメインの学会の中でご活躍されるのは当然のことですが、それぞれの学会に成果を返していくためにも、汽水域という共通のフィールドで様々な分野の方々に語りかけて、その中で自分の研究の質を高めていくという場をここで作っていただきたいと思っています。それと同時に汽水域というフィールドにおいて、これまでの陸水学や海洋学とは共通部分ももちろんありますが、質的にも視点も異なる「汽水学」という学問が欲しいと願っています。そのためには学問としての体系、方法論の整理が必要です。ただし「汽水学」が一朝一夕にできるものではありませんので、汽水域研究会を通じてみなさんと議論を深めることをこの場で行っていきたく思います。そういう意味で汽水域研究会を発展させていただきたいと思っています。外部からみて、リタイヤした者が会長になって人材不足と思われまいようがんばりますのでご協力いただきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

（島根大学名誉教授、高安克己）

目次:

1. 総会開催報告	1
2. 会長あいさつ	1
3. 研究会2010	2
4. 汽水湖紹介リレー	2
5. 研究こぼれ話	2
6. 空から見た汽水域	3
7. 汽水域のことば	3
8. イベント紹介	4
9. 募集とお知らせ	4

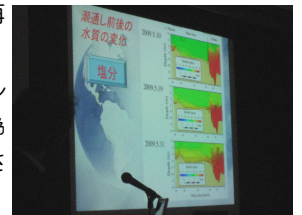


3. 汽水域研究会2010年大会開催



2010年1月9日-10日、1 ページで紹介した「汽水域研究会第1回総会」終了後、同会場で「汽水域研究センター第17回新春恒例汽水域研究発表会」と合同で「汽水域研究会2010年大会」が開催されました。1日目は午前中の一般発表に続き、午後から一般発表とシンポジウム「河口～内湾域の人為的改変の現状と課題」(主催:島根大学汽水域研究センター;後援:汽水域研究会)が行われました。2日目も午前中から一般発表で活

発な討議が行われました。発表内容としては、常設セッション「保全再生系」、「生物・生態系」、「汽水域一般」、「資源系」、「環境変動系」、スペシャルセッション「本庄水域の環境と生物 ～開削の影響に関連して～」、「海跡湖に記録された小氷期以降の汎世界的な環境変動と人為的環境変化」が設けられ、汽水域に関する様々な問題が幅広く議論され、大盛況のうちに記念すべき第1回発表会は終了しました。



4. 汽水湖紹介リレー

このコーナーでは、汽水域研究会の会員の方々に、リレー方式で毎回汽水湖の紹介をしてもらおうと思います。ただし、今回は創刊号で記事も多いため、このコーナーはお休みにします。次号から具体的な汽水湖を紹介してもらいますので、楽しみにして下さい。

5. 汽水域研究こぼれ話「第1回 野村会員」

汽水湖の湖底は“ヘドロ”がたまっている。ヘドロは悪臭を放し、とにかく厄介者である。汽水域研究ではこのヘドロをどう処理するか、汽水域の水質改善にあたっては大きな課題であることには間違いない。このような問題のあるヘドロであるが、ものは見ようによって変わってくる。地球温暖化が加速して、環境問題が深刻な社会問題となっているなかで、汽水域の“ヘドロ”は、環境変化を正直に記録しているレコーダーである。地球科学者は太古の地球環境の復元に有孔虫を使っている(写真)。いろいろな生物の遺骸が過去のヘドロであった地層の中には保存されているが、経験的に有孔虫は用途が多様で“化石の王様”として重宝されている。こんな面白い生物がヘドロの中において、汽水域の時間的空間的な変化の様子を知らせてくれる。地球温暖化による微妙な水位変動や湖内流が有孔虫の分布からみえてくる。もっと他の分野の人にも知ってもらえたら

と願っているが、しかし、小さいのは見えないので感覚的にもどかしさがある。それでは、いっそう水中の世界を見続けることのできる水中カメラを開発しようと取り組んでいるのが、図1にあるようなもので、國井先生・相崎先生の資金援助を受けながら3号機を作製することができた。とくに3号機は優秀で、2ヶ月間水中に置きっぱなしでも鮮明な映像を記録してくれる(図2)。平成22年度からは実況中継し、インターネット回線を通じて多くの方が家庭や職場で水中の世界を楽しんで頂ければと思って計画である。汽水域は、多様な世界であるだけに、それだけたくさん基礎的・応用的研究ができるはずである。ユニークな取り組みの成果が会員の皆さんから報告されることを楽しみにしているところである。

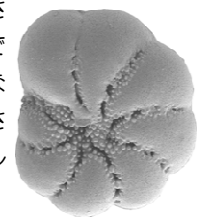
(島根大学、野村律夫)



図1. 長期設置型水中カメラ3号機



図2. 鮮明な映像

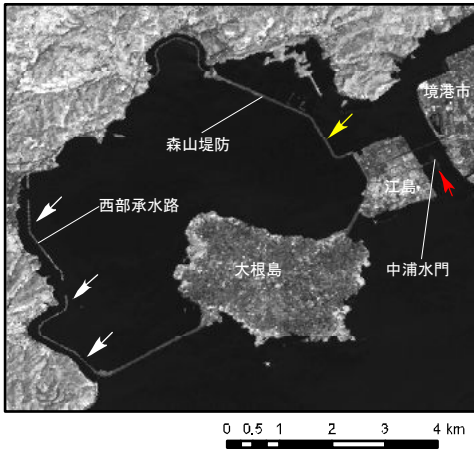


有孔虫
(大きさ0.2mm)

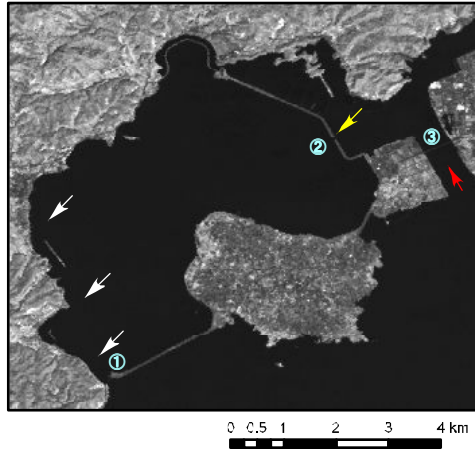


6. 企画記事「第1回 空から見た汽水域—中海本庄水域」

2006/8/24 撮影



2009/9/27 撮影



①西部承水路開削工事



(2007/7/20撮影)

②森山堤防開削部

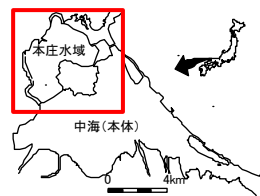


(2009/10/28撮影)

③江島大橋



(2009/10/28撮影)

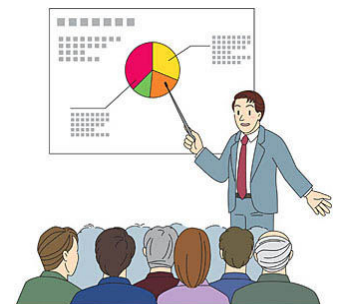


島根県と鳥取県の県境部に位置する中海の北部水域に本庄水域があります。この水域では2009年5月末に、中海・宍道湖淡水化計画の中止に伴い、約30年ぶりに境水道から直接船の往来が可能となるという歴史的な出来事がありました。上の2つの画像は、人工衛星Terraに搭載されているASTERと呼ばれるセンサから撮影された本庄水域の近赤外画像です。近赤外波長の写真は、同波長で水による光吸収が激しいため、水部と陸部を分離して撮影することができます。このうち、左が2006年8月末の画像で、右が2009年9月末の画像です。新しい画像では矢印の堤防部が無くなっていることがわかります。また、下に示した写真は、筆者が①、②、③の部分で撮影したデジカメ写真です。※衛星画像提供：経済産業省/ERSDAC (広島大学, 作野裕司)

7. 汽水域のこぼ「第1回 汽水域とは」

汽水域とは海水と淡水が混ざる水域を言います。そのため海水域や淡水域で見られない独特の環境を示しています。汽水域は、河口の感潮域、海と接する海跡湖、流量の多い内湾などで見られ、そのような場所は平野部と接するため、古くから人類の生活の場でもあります。海水と淡水が混ざる水域と言いましたが、実際には密度差があるため、なかなか混ざらず、成層を作るケースがよく見られます。淡水は塩分(密度)が低いいため表層に、海水は塩分(密度)が高いため底層に流入します。2つの水塊は、風や流れなどで混ざりますが、ある水深で深では完全に混ざりません。そのため、底層水は大气と長い期間遮断されることによって酸素が供給されず、低酸素～貧酸素～無酸素環境、さらに硫化水素の発生する強還元環境になることもあります。一方、表層水は河川から栄養塩に富んだ淡水の流入することや底質から溶出した栄養塩を含む底層水と混合することによって、生物生産性が高く、富栄養化しやすい特徴を持っています。これらは、汽水域に生息する多量の生物を支えていると同時に、常に大量斃死の危険性をはらんでいることを意味します。

(島根大学, 瀬戸浩二)





事務局の連絡先

(平成21年11月1日～平成23年12月31日)
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
島根大学汽水域研究センター内

TEL 0852-32-6436

FAX 0852-32-6436

お問い合わせ先:

office.rgbwa@gmail.com

汽水域研究会のホームページ

[http://pm75.soc.shimane-u.ac.jp/
resgroup/index.html](http://pm75.soc.shimane-u.ac.jp/resgroup/index.html)



汽水域研究会

関心のある方は
是非ご一報を!

8. 汽水域関連イベント(2010年4～9月)

(1) 水の都プロジェクト関係イベント

水の都プロジェクト協議会では、嫁ヶ島を中心とした環境保全及び各種イベントを通し地域住民及び一般市民への活動の醸成を図る目的で、嫁ヶ島保全草刈り(4/17, 6/5, 7/24), 五月の嫁ヶ島祭(5/8-9)などのイベントが計画されています。詳細はホームページ(<http://mizu-miyako.com/index.html>)をご覧ください。

(日本ミクニヤ株式会社, 召古 裕士)

(2) 汽水域関連学会

日本地球惑星科学連合2010年大会

会期: 2010年5月23日(日)～28日(金)

会場: 幕張メッセ国際会議場(千葉)

HP: <http://www.jpogu.org/meeting/index.htm>

水文・水資源水学会2010年学術大会

会期: 2010年9月7日(火)～9日(木)

会場: 法政大学(東京)

HP: <http://www.jshwr.org/modules/news/>

日本陸水学会第75回大会

会期: 2010年9月17日(金)～20日(月)

会場: 弘前大学教育学部総合教育棟(青森)

HP: <http://www.soc.nii.ac.jp/jslim/taikai/index.html>

9. 汽水域研究会からの募集とお知らせ

(1) Laguna (汽水域研究)の募集

「Laguna (汽水域研究)」第17巻の原稿を募集します。研究会のホームページに掲載されている投稿規程と執筆要領を参考に、投稿票とともに下記アドレス宛投稿して下さい。また、電子ジャーナルの表紙のデザインについても募集中ですので(6月末締め切り、奮って応募願います。

投稿先: Laguna.editor@gmail.com

(島根大学, 國井秀伸)

(2) 汽水域研究会の英語名を募集します!

第1回総会の結果、汽水域研究会の英語名を会員から広く募集することになりました。寄せられた案を運営委員会で検討し、いくつかに絞って会員からの投票により決定したいと思います。つきましては、以下の要領にしたがって、汽水域研究会の英語名の案をお寄せ下さい。

締め切り: 2010年4月30日(金曜日)

応募方法: 汽水域研究会事務局(下記参照)までメールで。

応募内容: (1)氏名、(2)英語名、(3)もし必要であれば補足説明の3点。

多くの応募をお待ちしています!

(3) 会員数(2010年3月31日現在)

正会員: 64名, 賛助会員: 1名, 学生会員: 1名, 計66名

(4) 研究会の入会方法

入会をご希望の方は申込用紙に記入の上、研究会事務局までメールかFAXでお申込み下さい。

汽水域研究会ホームページ: <http://pm75.soc.shimane-u.ac.jp/resgroup/index.html>

よりMS-Wordファイルの申込用紙をご利用ください。



(島根大学, 倉田健悟)

編集後記

記念すべきニュースレター第1号はいかがでしたでしょうか? 編集責任者を仰せつかったものの今後のニュースレターの方針を示さないといけない重責に苦しみました。これからもよりよい誌面作りに会員の皆様、ご協力下さい!

(広島大学, 作野裕司)